

患者と家族4000人の相談に乗ってきた医師の“心の処方箋”

がんで不安なあなたに読んでほしい。 自分らしく生きるためのQ&A

がん研有明病院 腫瘍精神科部長 清水研

(価格) 1400円＋税 (出版元) ビジネス社

株式会社ビジネス社（東京都新宿区 代表取締役：唐津隆）は、新刊書籍『**がんで不安なあなたに読んでほしい。自分らしく生きるためのQ&A**』を発売いたしました。ぜひ、貴メディアにてご紹介いただけますと幸いです。

◆病気の不安は消さなくていい!?

がんという病気はその性質上、患者さん本人や家族の状況を一変させるほどの破壊力があります。生命の危機を感じて自らの人生を悲観し、自死を選ぶ方も多いのです(がん宣告後、1年以内に自殺する人の率は、一般の人の23.9倍。がん対策推進協議会 2016年調査)。

著者の清水研医師は、がん患者とその家族の精神面をケアする「精神腫瘍科医」として、これまでに4000人以上の方の相談に乗ってきました。がん患者・家族の精神面のケアをする「精神腫瘍科医」の存在は、まだまだあまり知られていないのが現状です。また、地方で精神腫瘍科を受診したいと思っても、医師がおらず、難しいという現実があります。

そこで本書は、清水医師がこれまでの経験から代表的な悩みを選択し、紙上でカウンセリングを試みました。

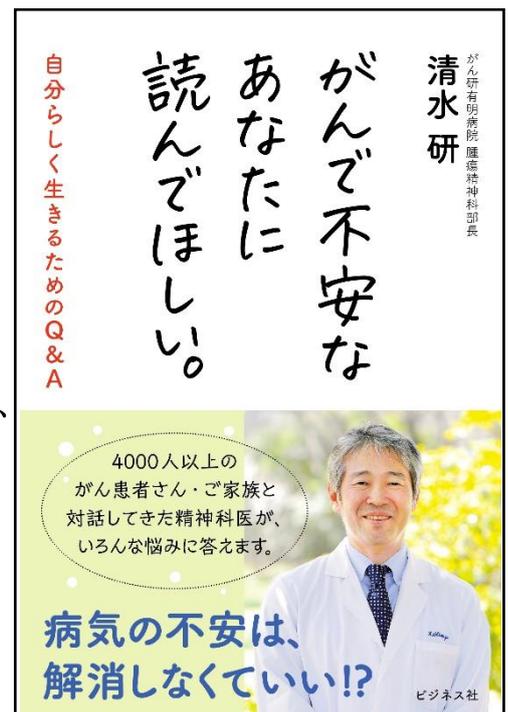
◆「もしも一年後、この世にいないとしたら。」がヒット中

著者の清水医師は、『もしも一年後、この世にいないとしたら。』(文響社)が大ヒット中。限られた時間だからこそ見つけれられる、本当の生き方——多数のがん患者と家族の悩みに対し、真摯に向き合ってきた著者だからこそ、人間の真実の姿を語るができます。

本書は、「がんで悩んでいる方に、本当に寄り添えるものにしたい」という清水医師の熱い思いにより、実際のがん患者の方にご協力をいただき、清水医師がカウンセリングを行い、それをもとに原稿を作成、さらにその原稿を患者の方々に精査していただき、納得のいかない回答は練り直す……という工程を経て完成しました。

がんで悩みを抱える方の気持ちに伝えられるよう、最善をつくしました。

一人でも多くの方に読んでいただきたいと思えます。



【清水研(しみず けん) プロフィール】

1971 年生まれ。精神科医・医学博士。金沢大学卒業後、都立荏原病院での内科研修、国立精神・神経センター武蔵病院、都立豊島病院での一般精神科研修を経て、2003 年、国立がんセンター東病院精神腫瘍科レジデント。以降、一貫してがん患者およびその家族の診療を担当する。2006 年より国立がんセンター(現 国立がん研究センター)中央病院精神腫瘍科に勤務。2012 年より同病院精神腫瘍科長。2020 年 4 月より公益財団法人がん研究会有明病院腫瘍精神科部長。日本総合病院精神医学会専門医・指導医。日本精神神経学会専門医・指導医。著書に、『もしも一年後、この世にいないとしたら。』(文響社)、共著に『国立がん研究センターのこころと苦痛の本』(小学館)、活動を紹介した書籍に、『人生でほんとうに大切なこと がん専門の精神科医・清水研と患者たちの対話』(稲垣麻由美著、KADOKAWA)がある。

【本書の構成】

1章 宣告を受けた直後の不安

- ・セカンドオピニオンを受けたいが、主治医が良い方で、言い出しにくい。
- ・友人は化学療法を受け、苦しんで亡くなった。私は民間療法で治したい。
- ・子宮摘出と言われた。子どもを望んでいる夫に、どう打ち明ければ……。
- ・30 代未婚で乳房切除との診断。もう結婚はあきらめるしかないのか。
- ・周囲が民間療法やサプリメントを勧めてくれるが、正直、煩わしい。 など

2章 治療中の悩みや不安

- ・初期の段階でがんを見つけてもらえなかった。その悔しさが消せない。
- ・痛み止めを使い続けることが不安。
- ・職場に迷惑をかける。いっそ退職してしまおうかと思う…。
- ・治療がうまくいっている人が羨ましい。
- ・「緩和ケア」を受けるのに良いタイミングはあるのか。
- ・主治医に信頼感を抱くことができない。
- ・再発してしまい、絶望に襲われている。 など

3章 治療後の悩みや不安

- ・いったんは治療を終えたが、再発が怖い。
- ・再発が怖くて、検査の前夜は眠れなくなる…。
- ・治療が終わったが、病院に行かなくてよいことが、むしろ不安。
- ・人工肛門になったのがつらい。
- ・患者会に参加してみたいが、どうやって探せばいい? など

【お問い合わせ先】

株式会社ビジネス社 編集担当：松矢

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 1 1 4 番地 神楽坂高橋ビル 5F

E-mail : matsuyapress@gmail.com 携帯:09072611982 TEL03-5227-1602 / FAX 03-52271603

著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。